

学習の手引き①



クラス：

名前：

国語科の学習 《 1 年 》

1 目標（学習のねらい・教科の特徴）

- 社会生活に必要な国語の知識を身に付けることができるようにする。
- 人との関わりの中で、自分の考えを広げることができるようにする。
- 言葉の価値や言語文化を認識しようとしている。

2 教科書・副教材・持ち物

副教材名	文法ワーク・漢字ワーク・国語ワーク
授業の持ち物	教科書・ノート・漢字ワーク・国語辞典・国語ワーク ※文法ワークは指示があったときのみ。

3 年間の学習項目（予定）

前期	後期
<ul style="list-style-type: none"> ・詩 「ふしぎ」「河童と蛙」 ・小説「桜蝶」「ベンチ」 「オツベルと象」 ・説明文「自分の脳を知っていますか」 ・古典「昔話と古典」「物語の始まり」 ・文法「言葉の単位」「文の成分」 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典「故事成語」 ・説明文「森には魔法つかいがいる」「子どもの権利」 ・詩 「四季の詩」 ・小説「少年の日の思い出」 ・文法「単語のいろいろ」 など

4 評価の観点と主な評価方法

評価の観点	主な評価物
言語に関して十分な知識を持ち、応用して活用することができる。 (知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（漢字、語句、文法等） ・日常の漢字テスト ・課題の内容（ワークシート、ノート） ・授業時の観察（発言内容等） ・単元まとめ
「論理的に考える力」「想像し、共感する力」「社会生活において伝え合う力」を高め、自分の考えを深めることができる。 (思考・判断・表現)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（文章読解、作文、聞き取り等） ・課題の内容（ワークシート、ノート） ・スピーチ、朗読等 ・授業時の観察（発言内容等） ・単元まとめ
進んで言葉についての理解を深め、言葉を通して思いや考えを広げようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、感想文等 ・授業時の観察（発言内容等） ・単元まとめ

5 先生からのアドバイス

(1) 授業でのポイント

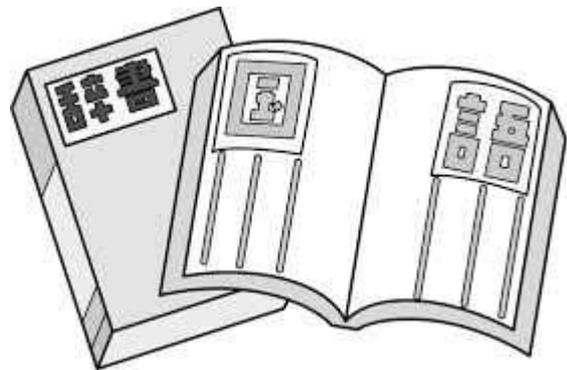
- ①ノートは詰めすぎず、余裕を持って使う。色づかいも考えるとよい。
- ②ノートの余白に大事な説明、気がついたことなどを書いたりする。
- ③課題に対して必ず自分の考えを持ち、積極的な発言や記述を心がける。
- ④話し合いやグループ活動に積極的に参加する。
- ⑤宿題・提出物は必ず期限を守る。

(2) 家庭学習のポイント

- ①漢字の書き取りを繰り返し行い、小テストで高得点を狙う。間違えたところを中心に復習する。
- ②教科書本文の音読、朗読をする。
- ③関連する図書やさまざまなジャンルの本を読む。
※夏休みには読書感想文の課題あり
- ④新聞を読む。
※新聞を読む習慣があると、読解力、文章をまとめる力（要約力）がつく。
毎日、自分の選んだ記事をまとめたり、感想や意見を書いたりするとよい。

(3) テスト勉強のポイント

- ①ノート、課題プリントを見直し、同じ問いや課題に対して書いて答えられるようにする。
- ②出題範囲の漢字を全て書ける（読める）ようにする。
- ③ワークやノートを使って、文法問題を理解できるようにする。
- ④その他、覚えるべき事柄はしっかり覚える。（言葉の問題や古文・漢文など）
- ⑤教科書の本文を繰り返し音読する。（読み方の練習にもなり、内容が頭に入りやすい）



社会科の学習《1年》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書名	新しい地理(東京書籍) 未来をひらく歴史(教育出版)
副教材名	歴史の完全学習1(正進社) 地理の完全学習1(正進社) 学び考える歴史(浜島書店) グラフィックワイド地理Ⅰ・Ⅱ(とうほう)
授業の持ち物	教科書 資料集 地図帳 ノート ワーク 色えんぴつ はさみ のり(詳しくは各教科担任に確認してください)

3 年間の学習項目

地 理 分 野	歴 史 分 野
1 編 世界と日本の姿 ・世界の姿 ・日本の姿 第2編 世界のさまざまな地域 ・世界各地の人々の生活と環境 ・世界の諸地域 第3編 日本のさまざまな地域 ・地域調査の手法	第1章 歴史のとらえ方・調べ方 ・私たちと歴史 ・身近な地域の歴史 第2章 原始・古代の日本と世界 ・人類の出現と文明のおこり ・日本の成り立ちと倭の王権 ・大帝国の出現と律令国家の形成 ・貴族社会の発展 第3編 中世の日本と世界 ・武家政治の始まり ・ユーラシアの動きと武家政治の変化 ・結びつく民衆と下剋上の社会 第4章 近世の日本と世界 ・結びつく世界との出会い

4 評価の観点と主な評価方法

評価の観点	主な評価物
知識・技能	・定期テスト ・小テスト（単元テスト） ・レポート ・振り返りシート
思考・判断・表現	・定期テスト ・小テスト（単元テスト） ・レポート ・振り返りシート
主体的に学習に取り組む態度	・レポート ・振り返りシート

5 先生からのアドバイス

「めざせ！社会科のプロフェッショナル！！」

(1) 「確かな学力」を身につけるには…

- 学習課題を理解し、課題に対して前向きに取り組もう。
- 疑問に思うことや分からないことを明らかにし、解決する努力をしよう。
- 学習課題に対して、たくさんの友人の意見を踏まえて考える力をつけよう。

(2) 「家庭学習」を充実させるためには…

- その日に学習したことを、ワークなどで定期的に復習しよう。
- 夏休みや冬休みなどは、学習の振り返りをする絶好のチャンスです。弱点の補強や長所を伸ばすことに有効に活用しよう。

(3) 定期テストを頑張るためには…

- 範囲は2週間前に発表します。テスト勉強のポイントをしっかり押さえて、計画的にテスト勉強に臨もう。
- 定期テスト前後にノートやワークの点検を行います。日頃からコツコツとまとめたり、取り組んだりしておくことが重要です。

(4) 評価について

- 知識・技能の評価
 - ・授業で扱った内容が理解できているか。
 - ・授業で扱った内容を理解してレポート等を記述しているか。
- 思考・判断・表現の評価
 - ・授業で扱った内容を説明できているか。
 - ・授業で扱った事柄をつなげてわかりやすくレポート等を記述しているか。
- 主体的に学習に取り組む態度
 - ・学習した内容を自分に関わることとしてレポート等に記述しているか。
 - ・適切に自分の学習状況を振り返っているか。

数学科の学習《 1年 》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指すこととする。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	未来へひろがる数学1 (啓林館)
副教材	e-library
持ち物	ノート・ファイル・コンパス・三角定規・分度器 (図形単元)

3 年間の学習項目

前 期	後 期
1章 正の数・負の数	4章 変化と対応
2章 文字の式	5章 平面図形
3章 方程式	6章 空間図形
	7章 データの活用

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物
数量や図形などについて理解し、知識を身につけ、正しく計算、作図ができ、グラフをかくことができる。	・定期テスト ・単元テスト ・小テスト ・レポート など
見通しを持ち、筋道をたてて考え、表現することができる。	・定期テスト ・単元テスト ・小テスト ・レポート など
自らの学習を調整しようとし、主体的に粘り強く学習に取り組むことができる。	・レポート等の授業で取り組んだもの ・授業での発表の内容 ・自主的に学習したもの など

5 先生からのアドバイス

「数学は科学の女王である」「自然という書物は数学の言語で書かれている。」

前者はガウスという大数学者、後者は皆さんもご存じのガリレオの言葉です。最近では、せまい意味だけではなくあらゆる学問のもとが数学につながっているといっても言い過ぎではありません。急速に進歩発展しコンピューター社会化する現代の社会では、皆さんが将来どんな方面に進んでいくにしても、数学をしっかり身に付けておくことが必要です。

もちろん、数学で使う用語の決まりや定理、公式などは覚えていなくてはなりません。これらを、ただ知識として覚えているだけでなく、さらに、いろいろな問題を解く材料として活用できることが大切です。また、計算問題は繰り返しやって、コツをつかみましょう。応用問題もいろいろなパターンの問題に慣れることが大切です。解法に気がついたときの感動が、次の問題への興味や関心、意欲につながっていきます。

<<学習の進め方>>

- (1) 教科書やノートはもちろん、図形であれば、コンパスや三角定規など用具の準備を忘れないようにしましょう。
- (2) 自分がこれから考える問題は何か、問題をしっかりと読んで、何がわかっていて何を答えるのかをしっかりとつかみましょう。
- (3) 自分なりの考えで、途中までも良いからやってみましょう。
- (4) 自分の解き方を発表したりして友達のもの比べてみましょう。もしも、やり方が違っていたら、説明してあげたり、教えてもらったりしましょう。
- (5) 学習して解ったことや用語の意味、定理や公式など大切なことは、きちんとまとめておきましょう。
- (6) その日学習したことは、その日のうちにもう一度やってみたり、問題集で類題を解いてみましょう。

<<家庭学習のアドバイス>>

【復習することが大切です。】

- ・授業でできたことも、時間がたつと忘れてしまいます。忘れる前に家で繰り返し練習して、身に付けましょう。
- ・十分力がついたらと感じたら応用問題にチャレンジしましょう。

理科の学習《1年》

1. 目標(学習のねらい・教科の特徴)

- | |
|--|
| (1) 観察・実験などに関する基本的な技能を身につける。 |
| (2) 観察・実験を通して、科学的に調べる力を身につける。 |
| (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に考えようとする態度を身につける。 |

2. 教科書・副教材・持ち物

教科書名	未来へひろがるサイエンス1(啓林館)
授業の持ち物	教科書 ノート 保護めがね クロームブック

3. 年間の学習項目

前 期	後 期
[生命]いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類 [エネルギー]光・音・力による現象 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象	[物質]身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 [地球]活きている地球 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地

4. 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物
知識及び技能 (科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的技能を身に付けている。)	・定期テスト(50%) ・パフォーマンステスト、スケッチ(10%) ・小テスト(40%)
思考・判断・表現 (事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。)	・定期テスト(70%) ・実験プリント、ワークシート(30%)
主体的に取り組む態度 (事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。)	・振り返りシート(70%) ・提出物の提出状況(15%) ・e-ライブラリへの取り組み(15%)

5. 先生からのアドバイス

●教科書について

この教科書は内容が盛りだくさんであり、資料集としての役割も果たしています。その分、発展的な内容も混ざっているので、「基本」を授業でしっかり確認しましょう。その上で、3分前学習の時間を使い、発展的な内容にも関心を持てるといいでしょう。

●授業について

何といっても、授業を大切にすることが一番です。

- (1) 3分前には着席し、始められる生徒から学習を始められるようにしましょう。
- (2) 今日の目的(ねらい)は何か、意識をもって授業に取り組みましょう。
- (3) 聞くとときと書くときのめりはりを付け、話をしっかりと聞き、注目して見るのが大切です。
- (4) 互いの意見や考えを積極的に交換し、学び合うことで理解を深めましょう。
- (5) 班で協力し、進んで観察や実験に参加しましょう。
- (6) レポートは丁寧に記録し、しっかりと考えて作成しましょう。
- (7) 内容が理解できたかを確認するために、なるべく早くe-ライブラリに取り組みましょう。
- (8) 疑問点や興味を持ったことは進んで質問しましょう。

●勉強の仕方

- (1) 日常の生活では？

- ・テレビ(科学番組・特集・ニュースなど)に出てくる科学の話題に触れましょう。
- ・季節の花、野菜、果物、身の回りの動物に目を向けましょう。
- ・庭、公園、通学路、天気、星など身近な自然に目を向けましょう。

- (2) 授業のポイントは？

- ・その日の授業の内容を自分なりに整理し、授業内容に付け加えたりするなど、その日のうちに復習すること。
(ただし、教科書を読むだけで分かったつもりになってはだめです。書きながらやるのが大切です。これなら1日10分程度でできます。)
- ・e-ライブラリを活用し、授業で学んだ内容が理解できているかを確認しましょう。
- ・時間に余裕があれば、自分で買った問題集などで力試しをしてみましょう。
- ・分からないことは、先生に質問しましょう。

- (3) 理科の基本事項とは？

- ・身近な(学校、学区、トピックスなど)物に興味を持っていること。
- ・教科書の太字が正しく書けること。
- ・教科書の太字の説明を自分の言葉でできること。
- ・実験器具の名前や正しい操作方法を知り、自分でできること。

- (4) テスト前の学習方法は？

- ・毎回の授業を大切にし、ノートやプリントをしっかりと見直しましょう。
- ・遅くとも2週間前からテスト勉強を計画的に進めましょう。
(一夜漬けでは、間に合いません！)
- ・基本事項は確実に覚えましょう。
(「光合成とは……」など自分で誰かに説明できるくらいになるといいですね。単語カードも効果的です！)
- ・計算問題や作図は、繰り返し練習しましょう。
- ・e-ライブラリは、合格するまで繰り返しやりましょう。
- ・余裕があれば、自分で買った参考書や問題集に目を通すとよいでしょう。

音楽 科の学習《1年》 ☆

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質能力を身につける。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	教科書 1・器楽
持ち物	〈常時〉教科書 2冊)・ノート・のり・鍵盤ハーモニカ・クロームブック・筆記用具
意欲	元気の歌声。明るい笑顔。豊かな表情。音楽を楽しむ気持ち

3 年間の学習項目

前 期	後 期
鑑賞：和声と創意の試み四季より 「春」 創作：旋律をつくろう 歌唱：「校歌」 「浜辺の歌」 合唱：合唱祭に向けて 「クラス自由曲」	鑑賞：魔王 雅楽「越天楽」 創作：場面にあった旋律をつくろう 歌唱：式歌の練習 三送会・卒業式 器楽：ギターに親しもう 日本の楽器（箏）に親しもう

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 方 法
知識・技能 音楽的な特徴及び構造と曲想との関わりについて表現及び鑑賞の活動を通して理解しそれを表現する技能を持っている。	・ノート・ワークシート ・活動の様子 ・実技試験
思考・判断・表現 音楽を形作っている要素を聴き取りそれらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら音楽表現を工夫しどのように表すかについて思いや意図をもってそれを伝えることができる。	・ノート・ワークシート ・活動の様子 ・発表や発言
主体的に学習取り組む態度 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現活動・鑑賞に取り組もうとしている。	・ノート・ワークシート ・活動の様子 ・発表や発言

5 先生からのアドバイス

歌唱

日本の歌として「浜辺の歌」、合唱祭に向けて合唱の曲などを歌います。心に残るよい歌をたくさん歌っていきましょう。元気な明るい歌声を出すためにいつも笑顔で学習に取り組みましょう。

器楽

鍵盤ハーモニカとギターを使って年間を通し様々な楽曲を演奏していきましょう。

創作

Chromebook や鍵盤ハーモニカを使用して旋律づくりをします。

鑑賞

西洋のクラシックや日本の伝統芸能音楽、ポピュラー音楽等を聴きます。

聴き方のポイントをつかみ、楽曲の構成について理解を深めましょう。いろいろな音楽に興味を持って楽しく聴き、音楽のよさを味わうことが大切です。

美術科の学習《 1 年》

1 目標（学習のねらい・教科の特徴）

- | |
|---|
| <p>(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。</p> <p>(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。</p> <p>(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。</p> |
|---|

2 教科書・持ち物

教科書	美術 1
基本的な持ち物 (美術セット)	<ul style="list-style-type: none"> ○鉛筆（B以上の濃さが望ましい） ○色鉛筆（12色以上） ○油性サインペン ○のり ○はさみ ○セロハンテープ ○定規 ○ホチキス ○絵の具用の雑巾 ※アクリル絵の具セット（副教材）は学校で配ります。
課題によって必要な持ち物	使い古しのタオルやビニール袋、ラップなど。 課題に入る前の連絡を聞いて用意してください。

3 年間の学習項目

前 期	後 期
<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞 ○絵画（風景） 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞 ○木材工芸 ○平面デザイン

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物
(1) 知識・技能 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品などの提出物 ・授業への準備 ・鑑賞
(2) 思考・判断・表現 主題を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・作品 ・鑑賞
(3) 主体的に学習に取り組む態度 創造活動の喜びを味わい、表現の学習活動に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・授業に取り組む態度

図画工作から美術へ

小学校の図画工作が専門的になり、より一層『美しいもの』を発見し、新しい美を追求していきます。中学校では、「自分」「友達」「学校・生活」「自然・社会」それぞれのかかわりを大切にして楽しく表現及び鑑賞の学習に取り組みましょう。

○知識・技能

日頃からいろいろな作品や自然、様々な材料に関心をもって見たり、伝統や文化、社会と美術について考えてみたりしましょう。風景のスケッチや生活の中から『自然の中の美』を見つけましょう。

水彩では、筆の特性を生かし、塗り、にじみなどの技能を身に付けましょう。木材工芸では、木の工芸の基本的な制作方法を理解し様々な表現を試みて、意図に応じて材料や用具を生かし、見通しをもって工夫して完成させましょう。

○思考・判断・表現

絵画では、スケッチを通して細部を観察し、発見した魅力を大切にして表し方を考えましょう。そして絵の良さをさらに引き立てる題名や伝える言葉を考えましょう。

デザインでは、自分の想いやイメージを言葉やスケッチに描き、目的や機能を考え、構想を練り、作品制作の計画を立てましょう。

作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、自分の考えを言葉や文章に表すことができるようになりましょう。自分と異なる見方や感じ方にふれると新たな発想が生まれ、考えが深まります。友達と意見を説明し合うなどして見方や感じ方を広げましょう。

○主体的に学習に取り組む態度

週1回の授業に、持ち物をしっかり準備して臨みましょう。そして取りかかりを早くし、短時間で集中して作業を進め、提出物の未提出や、作品未完成が絶対に無いようにしましょう。また、自分の意見を積極的に発表したり、ほかの人の意見をよく聞いたりしましょう。

スケッチでは、細部までじっくり観察し、形の特徴をよくとらえましょう。

保健体育科の学習《1年》

1 目標(学習のねらい・教科の特徴)

運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさを味わうことができるようにする。また、各単元におけるルールや知識、技能を身につけ、持てる力を精一杯発揮し、結果に対して公正な態度がとれるようにする。さらに運動を行うことによって自己の体力に関心を持ち、自主的・自発的に活動できるようにする。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書	体育実技、新しい保健体育（東京書籍）
授業の持ち物	ファイル、筆記用具、3年間の保健資料ノート

3 年間の学習項目

前 期	後 期
○体づくり運動・集団行動	○器械運動（マット運動）
○新体カテスト	○ダンス
○陸上（ハードル走・短距離走・リレー）	○陸上（長距離走）
○球技（ネット型・ベースボール型）	○心肺蘇生法実習
○運動会に向けての練習	○球技（ネット型・ベースボール型 ゴール型）
○保健学習（健康な生活と疾病の予防）	○保健学習（心身の機能の発達と心の健康）

4 評価の観点と主な評価方法

評 価 の 観 点	主 な 評 価 物	
運動や健康・安全について、具体的な方法、学び方や安全な行い方を理解し、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。	学習カード 小テスト 技能テスト	授業中の取り組み方を観察評価 ・技能のポイントを伝えている ・仲間の課題やできばえを伝えている ・仲間へ助言したり、仲間の学習を援助している ・健康安全に留意して取り組んでいる等）
自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、運動の取り組み方や運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。	学習カード グループ活動	
公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して学習に積極的に取り組もうとしている。	学習カード グループ活動	

5 先生からのアドバイス

○体づくり運動・集団行動

- ・授業規律をしっかり守りましょう。
- ・自ら進んで体力を高めようと努力し、自己の体力に興味・関心を持ちましょう。
- ・姿勢に気をつけながら、相手のことを気遣う気持ちを大切にして取り組みましょう。

○陸上（短距離走・ハードル・走り高飛び・長距離走）

- ・個人種目は、学習カードの記入を頑張りましょう。毎時間にめあてを持ち、自己の記録に挑戦しようとする前向きな気持ちが大切です。途中で諦めたりせず、目標記録に向けて努力できると良い。
- ・グループ活動を充実させましょう。友だちと協力して互いに高め合い、評価活動ができると良い。

○ダンス

- ・慣れ親しんでいない単元になりますが、ダンスは恥ずかしがらずに大きく体を動かしましょう。
- ・積極的に評価活動ができるようにしましょう。

○器械運動（マット運動）

- ・苦手意識の高い生徒が多いと思いますが、自己の能力に応じて段階的に進めていきましょう。それぞれ課題となる技や連続技を、できないと最初から決めつけず、補助をしてもらいながら成功体験が増えるように努力しましょう。
- ・難しい技もあることから、安全に留意して真剣に取り組みましょう。また、補助も大切になります。気をゆるめずに声をかけあって行うようにしましょう。

○球技（ネット型、ベースボール型、ゴール型）

- ・個人でなく、チームでの活動になります。自分だけ楽しければ良いのではなく、周りと協力して授業をつくっていきましょう。また、チームの作戦立てをしっかりと行い、めあてを持って臨みましょう。
- ・授業の雰囲気悪くするような言葉かけ（マイナス要因）は避けましょう。仲間の意欲を削ぐことに繋がってしまいます。

○全体を通して・・・

- ・グループ活動（学び合い）が体育の柱になります。自分だけが上達すれば良いのではなく、仲間とともに技能を高められる活動をしていきましょう。
- ・集合時間、体育のルールをしっかり守り、意欲的に活動できるようにしましょう。

評価基準について

【知識・技能】

- ・各運動の特性（ルール・行い方・成り立ちなど）を理解しましょう。
- ・運動に関連して高まる体力と、健康・安全の留意点について理解しましょう。
- ・運動の特性にあった基本的な技能を身につけましょう。
- ・健康・安全な生活を送るための知識を身につけましょう。

【思考・判断・表現】

- ・授業を振り返り、学習カードにまとめましょう。
- ・自己の課題を発見し、解決方法を考え、運動の取り組み方を工夫しましょう。
- ・反省や感想から次回のめあてを立てられるようにしましょう。
- ・バディ活動を充実させ、考えたことを仲間に伝えましょう。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・健康・安全に注意して、学習に積極的に取り組みましょう。
- ・仲間と互いに協力し、自己の役割を果たしましょう。
- ・フェアなプレイを大切に、ルールやマナーを守りましょう。
- ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしましょう。
- ・バディ活動を充実させ、助け合ったり、教え合ったりしましょう。

技術科 学習の手引き《全学年》

1 目標（学習のねらいや教科の特徴）

材料と加工に関する技術・エネルギー変換に関する技術・生物育成に関する技術・情報に関する技術の4つの領域に対して、理論と実践のもとに基礎・基本的な技術の習得および知識としての定着を図る。さらに、現在または将来の社会や環境を見据え、習得したことを活用する能力と態度を身に着ける。

2 教科書、副教材、持ちもの

教科書	新しい技術・家庭科 技術分野（東京書籍）
副教材	1年：本立ての製作(材料と加工の技術)、豆苗の栽培（生物育成の技術） 2年：ウディーキューブラジオの製作(エネルギー変換の技術) 3年：コロックルの製作とプログラム制御(情報の技術)
持ち物	1・2・3年：ファイル（ノートは使用しません） ※各学年、作業で必要なものについては、後日連絡します。

3 年間の学習項目

- 1年：A 材料と加工の技術 B 生物育成の技術・・・前期に授業を実施します。
2年：C エネルギー変換の技術・・・・・・・・・・後期に授業を実施します。
3年：D 情報の技術・・・・・・・・・・通年、隔週で授業を実施します。

4 評価の観点と主な評価方法

	観点の内容	評価の方法
1 観点 知識・技能	生活や社会について基礎的な事柄を理解するとともに、それらに係る技能を身につけている。	定期テスト 作品の完成度 ポートフォリオの記述内容 など
2 観点 思考・判断 表現	生活や社会の中から問題を見つけて課題を設定し、学習した内容を活用して解決する力を身につけている。	ワークシートの記載内容 グループ活動等の行動観察 ポートフォリオの記述内容 など
3 観点 主体的に 学習に 取り組む態度	よりよい生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしている。	ワークシートの記載内容 グループ活動等の行動観察 ポートフォリオの記述内容 など

5 授業で心がけてほしいこと

- 授業準備（時間・服装・持ち物）を確実に整える。
- 説明や見本実践に集中する。
- 安全に十分注意して作業する。
- 道具や機械を正しく・丁寧に使用する。
- 友達と助け合いながら作業する。
- 学習環境の整理整頓に努める。

習ったことを、どうやって実生活に生かすかを考え、実践しましょう。

5 先生からのアドバイス

★★習ったことを、どうやって実生活に生かすかを考え、実践しよう★★

- ・家庭科の目的は、「自分の生活をより豊かにする」ということです。そのためには、実際に生活に生かしていかないと意味がありません。
- ・習ったことを思い出して、家で取り組んでみてください。

授業・学習のポイント

① あいさつ・返事は元気よく

- ・あいさつと返事は人と関わる時の基本です。しっかりと行ってください。

② 忘れ物をしない

- ・忘れ物をしたら授業中何もできず、自分が困ってしまいます。
- ・学校で保管している教科なので、しっかり保管し、忘れずに準備しましょう。
※学習するために持ち帰った際は忘れないよう必ず確認しましょう。

③ 実習を行う時は、

話をしっかり聞く・わからないことは必ず質問・集中

- ・時間内に丁寧に作り終わるために、重要です。しっかり取り組みましょう。

④ 定期テストは期末テストのみです。

- ・言葉だけを覚えるのではなく、言葉の意味や関係することをしっかり理解しましょう。
- ・ノートや教科書を眺めているだけでは、テスト勉強になっていません。後悔しないように頑張ってください。

英語の学習【1年】

1 目標

- ・基本的な英語を聞き取り、話すことができる。
- ・書かれている事柄を理解し、正しく発音したり、音読したりできる。
- ・自分の考えを簡単にまとめて書いたり、発表したりできる。

2 教科書・副教材・持ち物

教科書名	NEW HORIZON1（東京書籍）
授業の持ち物	教科書、ノート、A4 ファイル、ワークブック

3 年間の学習目標

Unit0	小学校で習った表現を使ったり、単語を読んだり書き写したりすることができる。
Unit1	自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。
Unit2	身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。
Unit3	いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。
Unit4	相手に指示したり、自国や好きなものをたずねたりすることができる。
Unit5	行った場所や、そこで楽しんだことなどについて話すことができる。
Stage Activity1	自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。
Unit6	自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
Unit7	自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものなのかをたずねたりすることができる。
Unit8	今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。
Unit9	したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。
Stage Activity2	好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。
Unit10	過去のできごとについて説明したり、たずねたりすることができる。
Unit11	過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。
Stage Activity3	思い出に残った学校行事について発表することができる。

各 Unit 間で行う活動

Let's Talk	様々なことについて人に尋ねたり、
Unit1	自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。
Unit2	身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。
Unit3	いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。

4 評価の観点と主な評価方法

	評価の観点	主な評価物
観点1	英語のきまりや特徴を理解し、それらを活用できる技能を身につけている。	定期テスト、ワークシートの記述、スピーチ、会話活動、小テストなど
観点2	目的や場面に応じて身近な内容を伝えあったり理解することができる。	定期テスト、スピーチ、表現活動・会話活動、英作文、リスニングなど
観点3	主体的にコミュニケーションを図り、英語を運用する能力を高めようとしている。	スピーチ、表現活動・会話活動、英作文、リスニング、自己評価カードの記述、ノート記述など

先生からのアドバイス

英語の上達には、「繰り返し学習」が大切です！

【授業の取り組み】

- ① 忘れ物をせずに、確実に授業の準備をしましょう。
- ② 3分前に着席をし、落ち着いた状態で授業を始めましょう。
- ③ 先生や放送される英語をよく聞いて大きな声で発音し、正しい発音を身に付けましょう。発音が身につかないと、単語は覚えられません。
- ④ 進んで発表し、授業に積極的に取り組みましょう。
- ⑤ ペアやグループ学習に積極的に取り組みましょう。
- ⑥ ノート整理をしっかりと行い、プリントはファイルに綴じて保存しましょう。
- ⑦ 宿題や提出物は期限を守って提出しましょう。

【家庭学習】

- ・単語や基本文は何度も書いて練習し、覚えましょう。
- ・教科書本文を何度も音読しましょう。できれば暗記し、さらに書けるようにしましょう。
- ・授業の進度に合わせて、e-ライブラリや参考書を使って問題に取り組みましょう。
- ・聞き取りの力を付けるために、語学番組を視聴しましょう。
- ・英語の歌や映画など海外の文化に触れて楽しみましょう。
- ・英語検定に挑戦することも一つの勉強法です。(実施日は6/2、10/6、1/26)
詳細はホームページで確認してください。なお、6/2 実施の試験に関しては申し込み期間が5/8までとなっています。

【テスト勉強】

- ・単語・連語の意味・発音・綴りを確実に覚えましょう。
- ・教科書本文の内容や各單元ごとの文法事項を理解しましょう。
- ・教科書本文を読み、文の訳や内容など、自分の理解度を確認しましょう。
- ・プリント類を見直しましょう。

No Study = Fail, Study = No Fail

船橋市立海神中学

